



令和7年1月8日(水) 川崎市立西丸子小学校

不易と流行

川崎市立西丸子小学校 校長 筒井 愛子

あけましておめでとうございます。2025年のスタートです。皆様、穏やかにお正月を迎えることと存じます。年末には、校内でもインフルエンザが流行り始め、冷や冷やしましたが、学級閉鎖になるほどではなく、無事に冬休みを迎えることができました。

年末に、教育関係の友人に誘われ、「小学校」～それは小さな社会～という映画を観る機会があり、打合せで職員にも話をしました。この映画は、ドキュメンタリー映画で、ナレーションもありません。児童同士、教員と児童、児童と保護者、教員同士の対話や活動をひたすら流すだけのものですが、そのスポットの当て方(主に1年と6年)からは、いろいろなテーマを読み取ることができます。教員でない方、学校教育や子どもにあまり興味のない方には、かなり退屈を感じる場面もあると思いますが、「この監督が何を伝えたかったのか。」を考えますと、奥深いものを感じます。この監督は、日本とイギリスの血を引き、ニューヨークの大学で学んだ女性ですが、彼女は小学校時代、日本の公立学校で教育を受けました。「日本の公立小学校に通ったおかげで、今の自分がある。それを、世界に伝えたい。」という思いをもって、この映画を制作したそうです。世界各国の複数の映画祭でいろいろな賞を受賞し、「日本の小学校教育は、素晴らしい。」と、称賛されているそうです。

私のような立場の者なら、「うちの学校だったら、こうするかな。」とか、「この学校、先生の働き方改革は、大丈夫なのかな。」など、余計なことを考える場面もたくさんありましたが、逆に、授業以外に自分の学校以外のこういった場面を見る機会はないので、「教師が児童を信じる心」「職員同士の距離感」「ここは妥協しないという強さ」などの大切さについて、気づかされる場面があり、反省点もたくさん見えました。

よく、職員には、「学校は個を育てると同時に、集団を育てる。それはどちらが大切と言えず、車の両輪のようなものだね。」といった話をします。「個を育てる」とことと「集団を育てる」とことは、時には両立が難しく、指導する際には、線引きに迷うこともよくあります。ただ、間違いなく言えることは、公立学校は、その時代の社会に合わせていく必要があるということです。コロナ禍に撮影されたことが、それを物語っているように感じました。一つの公立学校の限られた場面ではありますが、「教育の方法には流行もあるけれど、考え方やその使命は、不易であるべきなのかな」などなど、いろいろ考えさせられました。

さて、創立70周年関係ですが、マスコットキャラクターが決まりました。児童から募集した作品を、全児童で投票し、まずは5つに絞りました。その中から決選投票で選ばれたのが、「にしやまくん」です。未だ人気の衰えない創立60周年のマスコットキャラ「にしつきちゃん」は存続し、創立70周年では、そのお友達の「にしやまくん」と「W主演」の形となります。12/25の最終日の朝会で、発表されました。12/19には、第6回の実行委員会も開催され、11/8の記念式典に向けて、着々と進んでいます。記念式典に限らず、「残すもの」「変えるもの」をしっかりと見極め、今年も職員一同、西丸子の教育活動をさらに充実させていきます。皆様への感謝の気持ちを忘れず、一層努力してまいります。どうぞ変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。